



外國宣傳情報 第八十四號

昭・一六・八・一六情報局

本資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、重慶又は第三國筋の宣傳の意圖による作爲的な報道も少からざるべきを以て取扱には特に注意を要す。

◎平沼男遭難と米、支報道

平沼男狙撃事件に關し早くも諸電臺よりの放送あるも日本現内閣の根本政策に對する國民の不滿表面化したるに外ならず斯る傾向は愈々増大すべしとの見解宣傳に一致しあり。

（ロイテル電） 八月十四日

平沼男暗殺計畫に就いて重慶情報筋の見解を綜合すれば次の如くである。

日本政府側には依然として、國際情勢に優柔不斷な態度を持続して居り、軍部側は日増しに焦燥を感じ意氣沈滞を來した結果日本に於て今次の政治事件が起きたもの、如く

である。

尙情報筋は日本を破滅に導くやも計られない太平洋に於ける一大戦争を遂行しようとする軍部を抑止しようとする老政治家達によつて近衛内閣は操縦されてゐるが、日本過激派の大勢の遂に抑壓し得ない徴候が増大してゐることを指摘してゐる。

※△桑港電 八月十四日

今朝第三次近衛内閣の屋臺骨ともいふべき副首相格たる平沼國務大臣が突如として兇漢に狙撃された。

狙撃犯人は直ちに現場に於て取押へられたが、彼の放つた一弾は平沼氏の頸部に命中した、同氏の容態は未だ判然としないが生命には別條ないと言はれてゐる。

斯かる兇行が演ぜられたのは、これは正しく國家主義の色彩を一段と濃厚化した第三次近衛内閣の根本的政策に對する民衆の不滿の顯現に外ならない。

◎米油槽船、浦鹽向送油開始

△上海電 八月十四日

(華府發) 浦鹽港迄の石油輸送協定遂行のため、同港向油槽船四隻が発令された。

右行爲は對日關係面白からざるべきに付き、太平洋經由とされるべきである。勿論油槽船は米國旗を掲げる。米當局は、米國が浦鹽を交戦港と公言したることなにより、米國船が同港に入港し得ざるは諒解に苦しむ。

◎米軍門家、ビルマ公路輸送能力増大を保證

△重慶電 (ロイテル電) 八月十四日

ロイテルは權威筋の報道として米國が對支援助計畫の一部として、八〇萬噸の軍需品を支那へ向け送つてゐる旨傳へた。

米國輸送専門家よりなるビルマルトの輸送状況調査隊は重慶に歸還後輸送量は現在の二倍乃至三倍にする事が出来ることを言明した。

◎米、日本油槽船に石油積出許可

△桑港電 (UP電) 八月十四日

(サンペドロ發) 十三日、日本油槽船菅羽山丸とニチエイ丸は當港に於て凍結令除外で油